2019年1月期
第2四半期決算（連結）説明会

株式会社東京ドーム

TOKYO DOME GROUP

2018年9月21日

目次

【2019年1月期　第2四半期決算　総括】

総括 ····· 3

【2019年1月期 第2四半期決算 実績】

2019年1月期　第2四半期概況 ····· 5

2019年1月期　第2四半期決算　実績 ····· 6

貸借対照表 ····· 7

キャッシュ・フロー ····· 8

当社グループの事業セグメント ····· 9

セグメント別売上高 ····· 10

セグメント別営業利益 ····· 11

事業セグメント　トピックス ····· 12

【2019年1月期 第2四半期決算　東京ドームシティ事業　トピックス】

東京ドーム　稼働状況について ····· 14

黄色いビル6,7F　ofit後楽園移転 ····· 15

Spa LaQua(スパ ラクーア)改修後について ····· 16

Spa LaQua(スパ ラクーア)リニューアル内容 ····· 17

【2019年1月期 第2四半期決算
東京ドームグループ　マーケティングに関するトピックス】

訪日外国人集客への取り組み ····· 19

黄色いビル1F　ofit跡地リニューアルについて ····· 20

【2019年1月期 第2四半期決算
東京ドームグループ　企業の取り組みに関するトピックス】

公共施設の運営受託事業について ····· 22

東京ドームシティ外の事業について ····· 23

【2019年1月期　通期業績予想および配当予想】

2019年1月期 通期業績予想および配当予想 ····· 25

※参考資料 ····· 29

※資料内、表における増減比較は、1円単位で計算しているため、表の数字の増減と合わないことがあります。

2019年1月期 第2四半期決算
総括

㈱東京ドーム　代表取締役社長　執行役員
長岡　勤

TOKYO DOME GROUP

総括

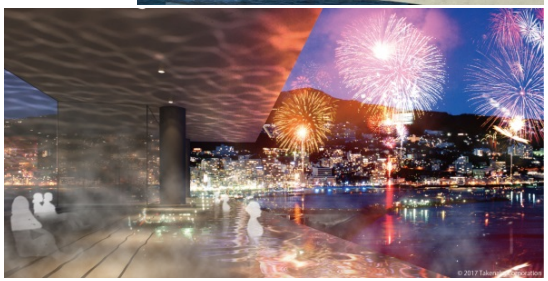
・中期経営計画「新機軸」について

〇進捗具合　トピックス

・有利子負債残高1,390億円まで削減の目標については、順調に進捗しており
今期末にも達成する予定。
→今後創出されるキャッシュについては有利子負債の更なる削減と
成長・価値向上のために投資する予定。

〇今後について

・ATAMI BAY RESORT KORAKUEN　2019年3月28日開業
→宿泊機能メインだった熱海後楽園ホテルは
日帰り需要も取り込むために温泉施設、
飲食・物販施設が付加されたリゾートエリアに転換。
日帰り利用客のターゲットが加味されることによって、
ビジネス基盤の強化を図る。



2019年1月期 第2四半期決算
実績

㈱東京ドーム　常務取締役　執行役員
小田切　吉隆

TOKYO DOME GROUP

2019年1月期　第2四半期概況

〇収支について

・前期比で減益となるも期首予想を上回る業績で推移。

※期首予想　第2四半期（累計）

（単位：百万円）	19.1期 2Q	期首予想	増減
売上高	41,833	41,300	533
営業利益	5,929	5,600	329
経常利益	5,371	5,000	371
純利益	4,171	3,600	571

〇設備投資について

・前期と比較し、熱海新館建設工事他で増加。

〇有利子負債残高について

・計画を上回るペースで削減が進む。

2019年1月期 第2四半期決算 実績

（単位：百万円）

	19.1期 2Q	18.1期 2Q	増減	要因（18.1期 2Q比）
売上高	41,833	40,351	1,482	＜要因＞ 【増収】 コンサート物販の好調 Gallery AaMo通期稼働 流通事業の好調 【減益】 **営業利益** 物販好調に伴う売上原価の増加 黄色いビルにおける一部フロアの返還 インバウンド施策に係る諸経費 設備投資に伴う減価償却費の増加 **純利益** 投資有価証券売却益の減少
営業利益	5,929	6,063	△133	
経常利益	5,371	5,392	△20	
税金等調整前四半期純利益	5,952	7,060	△1,108	
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,171	4,995	△823	
減価償却費	3,438	3,354	84	スパ ラクーアリニューアル工事による
設備投資額	8,270	3,873	4,397	・熱海新館建設工事 ・オフト移転にともなう黄色いﾋﾞﾙ転換工事
有利子負債額	140,818	151,584	△10,736	

貸借対照表

（単位：百万円）

資産	19.1期 2Q	18.1期 期末比	負債純資産	19.1期 2Q	18.1期 期末比
流動資産	**19,909**	**△7,051**	**流動負債**	**53,236**	**△6,236**
固定資産	**279,834**	**2,009**	**固定負債**	**142,088**	**325**
有形固定資産	240,710	4,533	**負債合計**	**195,325**	**△5,911**
無形固定資産	1,332	16	**株主資本**	**37,211**	**2,360**
投資その他の資産	37,791	△2,540	**その他の包括利益累計額**	**69,324**	**△1,264**
繰延資産	**2,117**	**226**	土地再評価差額金	55,286	0
			純資産合計	**106,535**	**1,095**
資産合計	**301,861**	**△4,815**	**負債純資産合計**	**301,861**	**△4,815**

キャッシュ・フロー

（単位：百万円）

	19.1期 2Q	18.1期 2Q	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,614	1,746	△132
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,070	△715	△5,355
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,236	△2,770	534
現金及び現金同等物の増減額	△6,691	△1,739	△4,952
現金及び現金同等物の期首残高	17,595	20,639	△3,044
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,904	18,899	△7,995

当社グループの事業セグメント

❑ 東京ドームシティ事業

東京ドーム　　東京ドームシティ アトラクションズ
LaQua　　MEETS PORT
黄色いビル　　東京ドームホテル　　他

❑ 流通事業

shop in

❑ 不動産事業

アドホック新宿、プチモール二ツ木
代々木イースト　　他

❑ 熱海事業

熱海後楽園ホテル

❑ 競輪事業

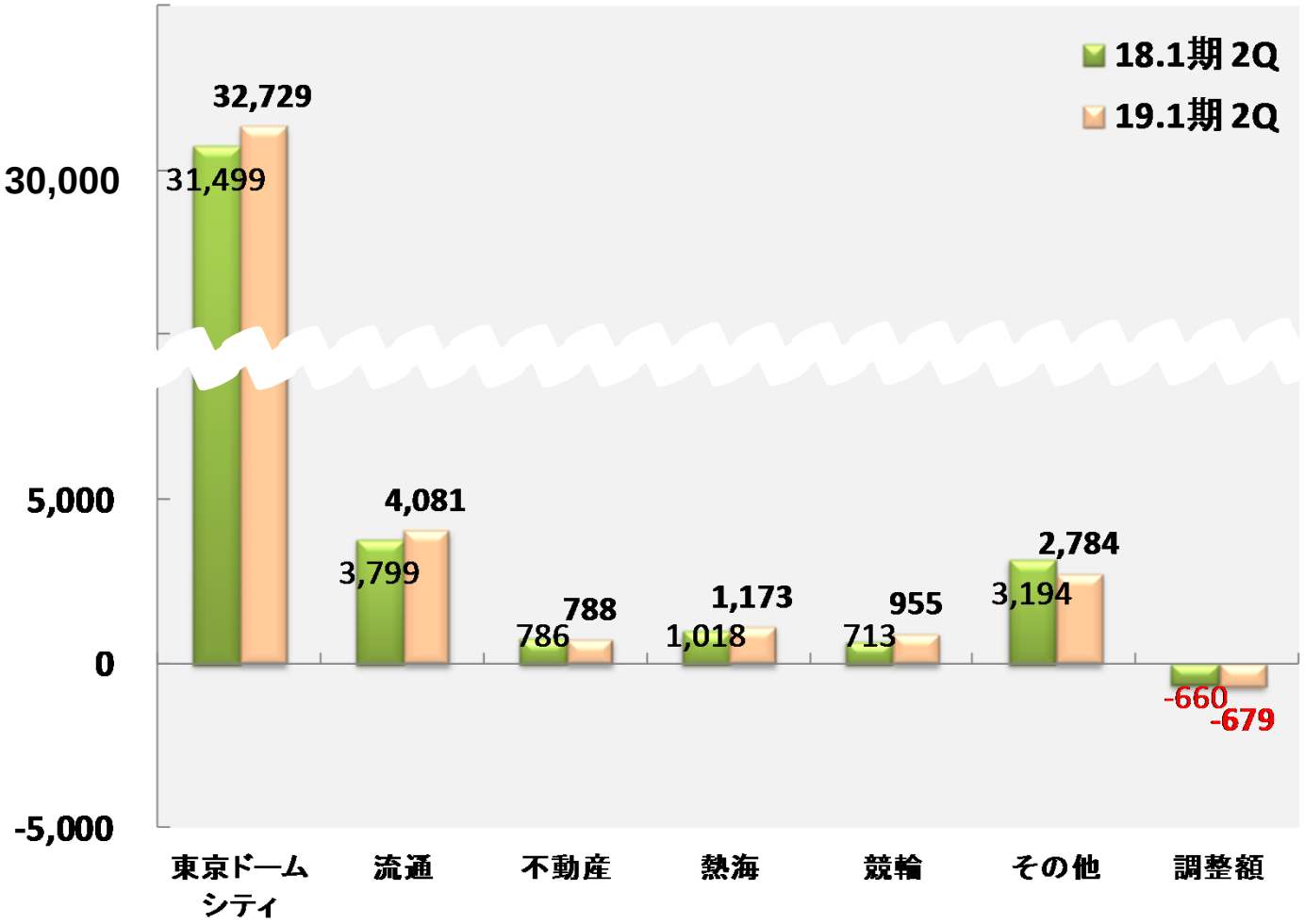
松戸競輪場　　他

❑ その他

スポーツ施設運営事業、
生命･損害･医療保険代理店事業、
有価証券の保有･管理事業、
有線テレビジョン放送事業　　他

セグメント別売上高

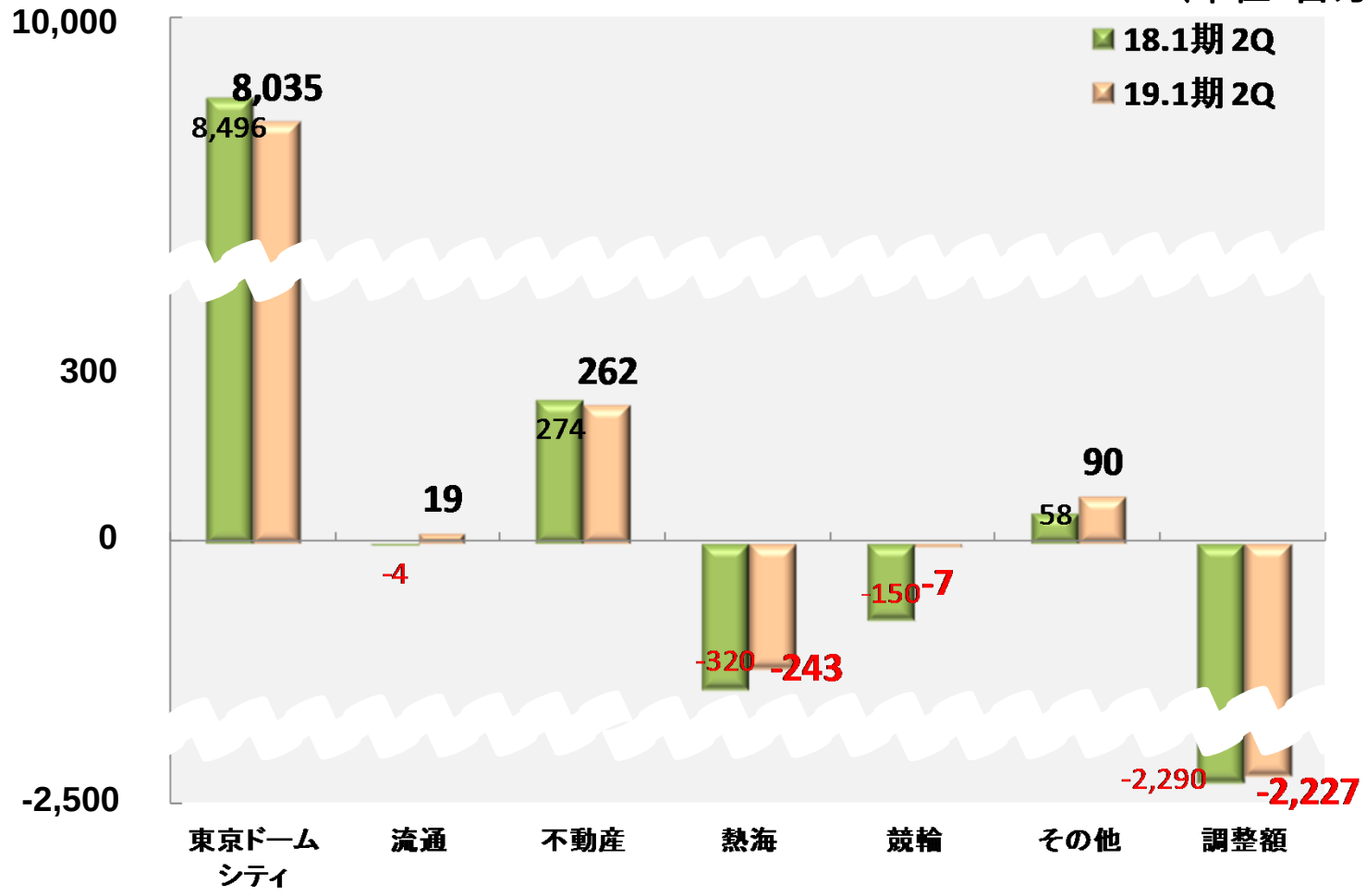
（単位：百万円）



（注）調整額にはセグメント間取引が含まれます。

セグメント別営業利益

（単位：百万円）



（注）調整額にはセグメント間取引が含まれます。

事業セグメント トピックス

18.1期2Qと比較して

○東京ドームシティ事業

・コンサート物販の好調、Gallery AaMo通期稼働などが売り上げに貢献。
黄色いビルは一部フロアの返還があったため減収に。
・コンサート物販等での売上原価の増加などがあり減益になる。

○流通事業

・販売体制の整備・強化を行い、既存店の売上が好調であった。売上好調により利益も増加。

○不動産事業

・売上、利益ともに堅調に推移。

○熱海事業

・リニューアル期間中は赤字になるが、客室稼働の好調により、利益改善。

○競輪事業

・松戸競輪場は、前期バンクのリニューアル工事を実施したため本場開催日数が減少したが
当期は通期稼動となったことにより、増収。

○その他

・東京ドームホテル札幌が、2017年4月末をもって営業を終了したことにより減収となったが、
諸経費が減少したことにより、増益。

2019年1月期 第2四半期決算
東京ドームシティ事業　トピックス

㈱東京ドーム　代表取締役専務　執行役員
山住　昭宏

TOKYO DOME GROUP

東京ドーム　稼働状況について

ジャンル別稼働日数	17.1期 2Q	18.1期 2Q	19.1期 2Q
プロ野球　[内巨人戦]	56　[44]	58　[39]	57　[42]
その他野球	24	23	25
コンサートイベント　※	39　（20）	44　（21）	51　（27）
その他イベント　※	28　（22）	25　（19）	26　（19）
合計	147	150	159
稼働率	80.8%	82.9%	87.8%

19.1期 2Q 計画値	計画比
57　[42]	0　[0]
25	0
47　（25）	4　（2）
26　（18）	0　（1）
155	4
85.6%	+2.2P

パリーグ球団主催試合数	
日本ハム	5〈7〉
ソフトバンク	2〈2〉
楽天	1〈1〉
ロッテ	0〈1〉
西武	1〈1〉
合計	9〈12〉

※　設営日、撤去日を含む。[　]内は、イベント開催日数

※〈　〉内は、通期開催日数

●東京ドーム稼働について
　プロ野球：18.1期はWBC開催があったが、19.1期は巨人戦、オープン戦の増でカバー。
　イベント：コンサートが好調で、東京ドームの稼働を牽引している

●東京ドーム下期稼働について
　プロ野球：巨人軍の順位によってポストシーズンの開催有無が決まる。
　　18.1期にはなかった日米野球が4日開催される
　　巨人×DeNA①（金沢中止 振り替え開催）、ロッテ主催試合①、日米野球④
　イベント：ライブ市場は安定しており、堅調な利用が見込まれる。
　　BTS（防弾少年団・韓流）、ラブライブは物販期待できる。

※10月の巨人軍ポストシーズン開催と、コンサートイベント開催数が、下期の大きな収益変動要因。

黄色いビル6,7F　offt後楽園移転

日本中央競馬会（JRA）より、昨年11月末でフロアの一部を返還したい旨の申し出があり、昨年の12月よりA館の5階から7階の3フロアが返還された。その3フロアの内、5階は当社の事務所、倉庫、研修室、会議室などに転用し、6,7階には、1階にあったofft後楽園を移設。

移設前は、混雑時にお客様が屋外スペースに滞留されることになり、雨、風、暑さ、寒さでご不便をおかけしていたが、移設後は屋内のみでの営業になり、快適な売場を提供。

また、7階には有料指定席（309席）「ラウンジセブン」を新設。

《オープン日：6階　6月4日（月）　7階 ラウンジセブン：7月2日（月）》

○ラウンジセブンについて

座席は、半個室風やボックス席などお客様の様々なニーズに対応したシートを用意し、ゆったりした快適な環境で競馬を楽しめるフロアとなっている。木目調のグレード感のある内装や、タブレット、飲食オーダーシステムを導入するなど、高単価のお客様のご利用の増加や、既存のお客様の滞在時間の延長に繋がっている。

■スタンダードシート【 500円 】　全134席

1人用のシングル席。囲われた空間でゆっくり競馬を楽しめる。

■カウンターシート【 1,000円 】全92席（写真上）

カジュアルな空間で競馬を楽しめるカウンター席、タブレット付。

タブレットではオッズの確認など競馬情報を取得できる。

■ボックスシート【 3,000円/1ブース】全12ブース・48席（写真下）

1ブース4名まで利用できるボックスシート。モニター、タブレット付。

タブレットではオッズの確認など競馬情報を取得できる。

■ファーストクラス【 3,000円 】全35席

ラウンジセブンの最上位シート。モニター、タブレット付の半個室タイプ。

リクライニングシート。ソフトドリンク無料でタブレットから飲食デリバリーが可能。

Spa LaQua改修後について

18.1期2Qとの比較で

〇入館者数

全体では1%程UP　内訳では、女性客数：5%弱UP　男性客数：3%程DOWN

〇売上

全体では5%弱UP　内訳では入館料収入は値上げ効果もあり7%弱UP　飲食収入も利用者増により16%程UP　エステ収入は4%程DOWN

Spa LaQuaリニューアル概要

【コンセプト】
「キレイになりたい」想いをかなえる　より上質で、より快適な「癒しとくつろぎ」の空間へ

〇浴室の改修・浴槽・サウナの追加

〇休憩・飲食スペースの拡充

〇ロッカールーム・パウダーコーナーの改修

〇トリートメント＆ビューティーエリアのリニューアル

Spa LaQuaリニューアル内容

浴室の改修・浴槽・サウナの追加

露天風呂エリアに、檜風呂の炭酸泉を新設し、内湯には酸素泉を導入。

各種サウナの内装変更・改修を実施し、露天エリアにはセルフロウリュが楽しめるフィンランドサウナを新設。

休憩・飲食スペースの拡充

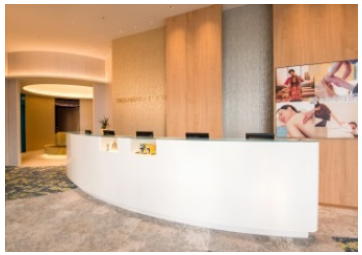
「ラクーアリビング」を新設し、館内混雑の解消とお客様の滞在環境の向上を実現。（50席増）

「気軽に、身体に良いものを食べたい」というニーズに応えるカフェデリ店舗・バーを新設したほか、既存店舗も開放感ある改装を実施。

ロッカールーム・パウダーコーナーの改修

ロッカーの容積率をアップし利便性を向上、混雑していたパウダーコーナーも座席数を増やし、お客様の利用環境を改善。

トリートメント＆ビューティーエリアのリニューアル



ワンストップで施術予約を可能とする総合受付カウンターを新設、施術ルームをリニューアルし、施術メニューの一部入れ替えを実施。

2019年1月期 第2四半期決算
東京ドームグループ
マーケティングに関するトピックス

㈱東京ドーム　常務取締役　執行役員
西勝　昭

TOKYO DOME GROUP

訪日外国人集客への取り組み

【外国人受け入れ体制の整備】

・外国語WEBサイトのリニューアル

短時間でも楽しめる、
東京ドームシティ
ならではの体験も紹介

・フリーWi-Fiサービスの提供

東京ドームシティにて、
無料でインターネットを
楽しめるサービスを提供

【プロモーションの実施】

・WEBプロモーションによる認知向上

検索サイトのWEB広告と
日本紹介サイトの記事による
東京ドームシティの認知向上

・インフルエンサーの活用

インフルエンサーを活用して、
東京ドームシティの写真・
投稿をSNSにて拡散

【2018年2～7月における訪日外国人の利用状況】

東京ドームホテル　宿泊者数割合　33.2%（前期比+2.7%）

黄色いビル1F　offt跡地リニューアルについて

【開発方針】東京ドームシティの街機能の強化と新規顧客の取り込み

宿泊機能：キャビンスタイルホテルを導入し、価格重視の個人旅行者など
従来とは異なるターゲットを誘致

飲食機能：テイクアウトを中心とした５店舗程度のフードガーデンを導入。
テイクアウト機能の強化と周辺通行客等の取り込みを図る。

宿泊機能

キャビン数：約130キャビン
運営形態　：フランチャイズ
契約先　　：(株)ファーストキャビン
運営　　：東京ドームグループ
宿泊人員　：年間4万人（2年目）
稼働率　　：85%（2年目）
料金　　：未定

飲食機能

店舗数　：5店舗程度
客席数　：200席程度
※飲食用イス・テーブルは
植栽を囲むよう配置予定
運営形態：テナント
利用者数：年間13万人（2年目）

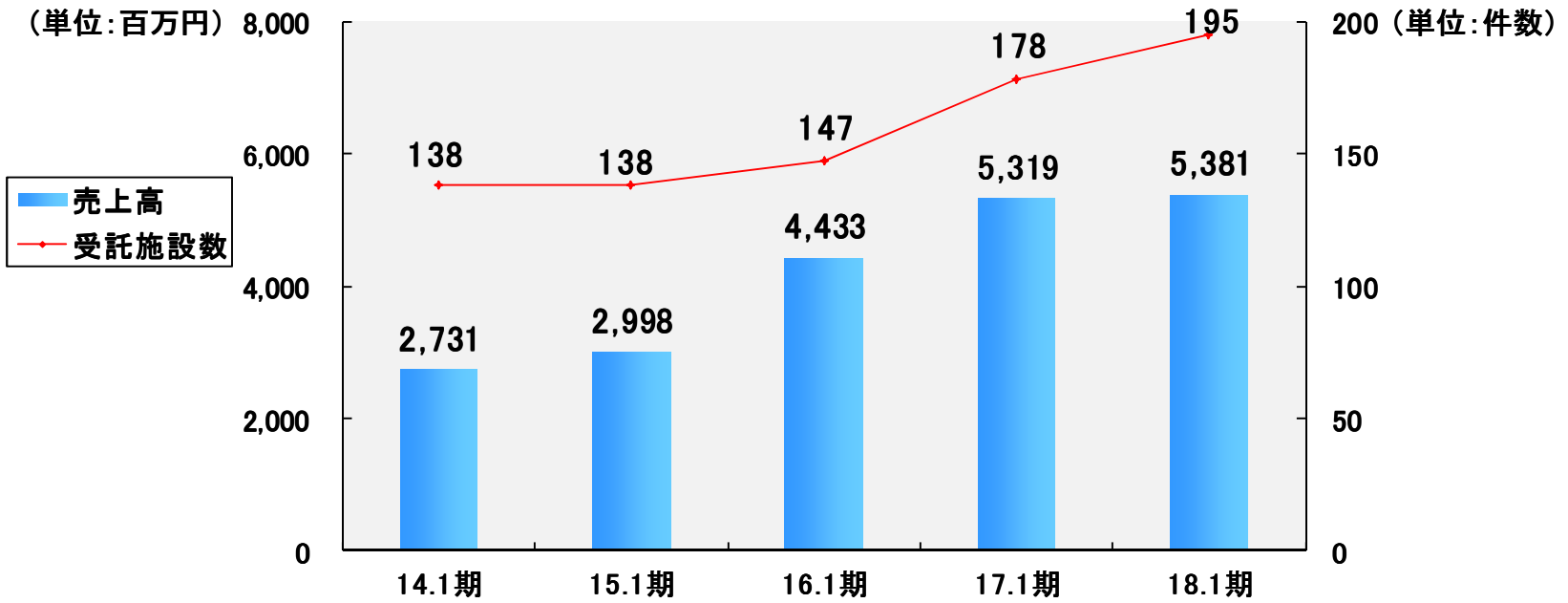
TOKYO DOME GROUP

2019年1月期 第2四半期決算
東京ドームグループ
企業の取り組みに関するトピックス

㈱東京ドーム 代表取締役副社長 執行役員
野村　龍介

TOKYO DOME GROUP

公共施設の運営受託事業について



【指定管理受託における方針】
- 首都圏を中心に、既存管理施設を拠点に面での拡大
- 地方で受託している既存案件のエリア拡大
- 拠点となる事業所を中心に人材のフォローアップ体制ができるよう考慮
- 事業採算性の高い案件の獲得

【今後の展開】
- 引き続き首都圏および地方の既存案件エリアを中心として拡大をしていく
- 東京ドームグループ以外の企業との積極的なコンソーシアムの組成
- ライブビジネスの好調を鑑み、ホール管理に関する応募を検討

東京ドームシティ外の事業について

【下期の動き】

〇競輪事業

・ミッドナイト競輪の開催
　2019年　1月　 6日間
・千葉競輪の代替開催
　2018年10月　 7日間
・松戸競輪場の駐車場・駐輪場用地を賃貸
　2018年10月～

〇不動産事業

・東大井（東京）の新規物件を購入　 2018年10月～
　用途：保育所、社宅

※イメージ

2019年1月期
通期業績予想および配当予想

㈱東京ドーム 代表取締役副社長 執行役員
野村　龍介

TOKYO DOME GROUP

2019年1月期　通期業績予想および配当予想

（単位：百万円）

	19.1期 予想	18.1期 実績	増減	要因（18.1期比）
売上高	83,800	83,686	114	＜増収の主な要因＞ 【プラス】 ・松戸競輪場、スパ ラクーア通年稼働 【マイナス】 ・黄色いビル一部リニューアルに伴う営業休止 ＜減益の主な要因＞ ・売上原価、減価償却費および一般管理費の増加 ※今期業績予想からの主な変動要因 ・プロ野球ポストシーズンゲームの開催 ・東京ドームイベント関連収入の増加
営業利益	10,100	11,389	△1,289	
経常利益	8,800	10,057	△1,257	
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,000	8,116	△2,116	
配当	12円	19円	△7円	

減価償却費	6,957	6,751	206	
設備投資額	13,276	9,587	3,689	・熱海後楽園ホテル新館建設 ・黄色いビル一部リニューアル ・東京ドームシティ アトラクションズ一部遊戯機器更新
有利子負債	134,400	140,513	△6,113	

この資料に関するご質問、その他ご意見等ございましたら下記にお問い合わせください。

お問い合わせ先　㈱東京ドーム　広報IR室

TEL (03)3817-6030　FAX (03)3817-6022
E-MAIL koho-ir@gms.tokyo-dome.co.jp

予測に関する注意事項

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績予想等を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

- ご利用に際しましては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しましても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権は㈱東京ドームに帰属します。
いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。

質疑応答

Q．**増収要因であるコンサート物販が、売上原価の増加による減益要因にもなっている。どういったことなのか説明してほしい。**

A．コンサート物販は売上に貢献しますが、原価率が高く売上ほど利益には寄与しません。今回の減益の主な要因は、黄色いビルの一部フロア返還に因るものです。

Q．**訪日外国人対応として、東京ドームホテル等でリピート率や再訪率を取得しているのか**

A．具体的なデータはとっていません。ただ個人のお客様が増えているとは感じています。

Q．**2019年はラグビーW杯、2020年は東京五輪と大きいイベントが控えており、訪日外国人の増加が見込まれるが、そういった環境に向けて何かアクションは取っているのか**

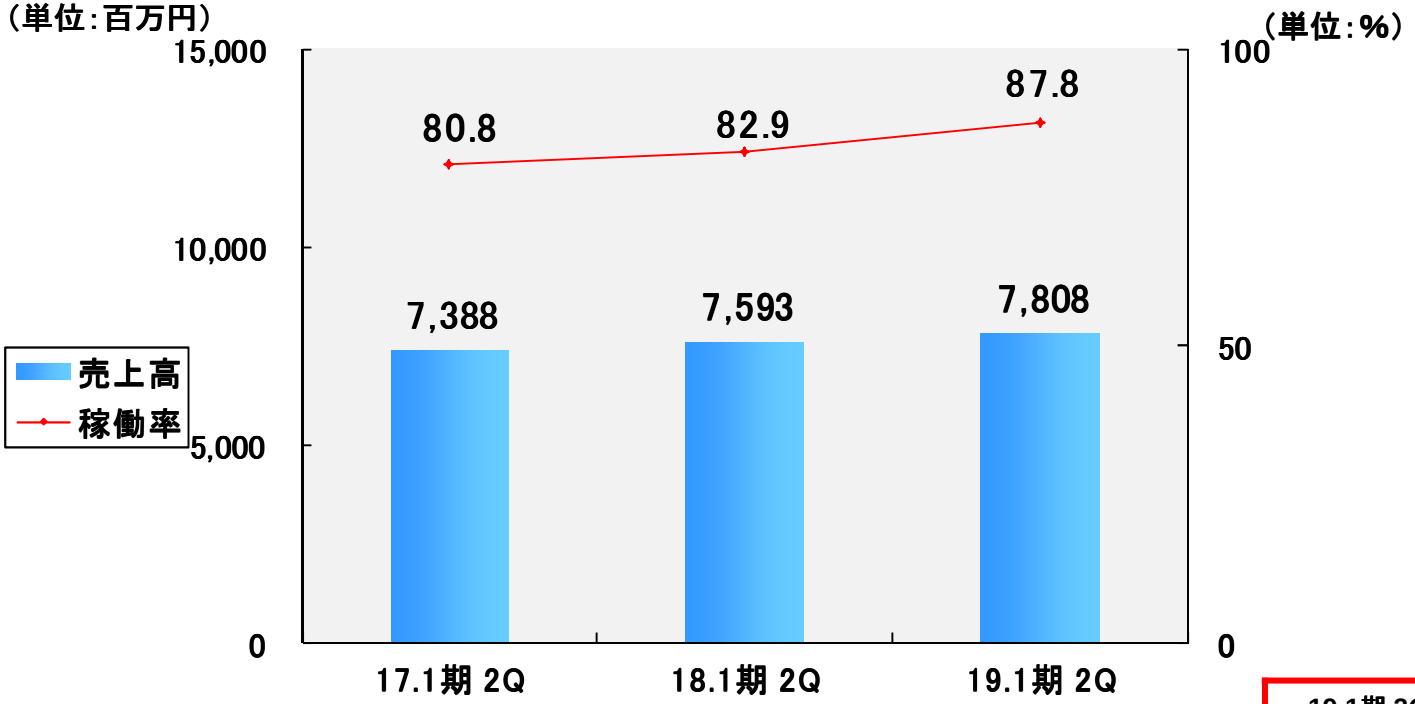
A．テナント様を中心に、免税対応を進めています。他では、ナイトレジャーが不足していると言われていますので、当社施設にて対応できないか検討中です。またＴｅＮＱやGallery AaMoなど展示施設を有しております。そういった施設への誘導販促等で、来場促進を図っていこうと考えております。

Q．**東京ドームホテルは宿泊人数、宴会件数、婚礼件数ともに横ばい以上で、宿泊稼働率も上昇しているのに、減収となった理由を教えてほしい。**

A．ADRは若干減少して、¥16,000に届きませんでした。宴会については、件数は前期と同様ですが、規模の変更等により減収となっています。また東京ドームでのコンサート開催時におけるホテルでの物販が前年と比較すると少なかったことも挙げられます。

参考資料

東京ドーム



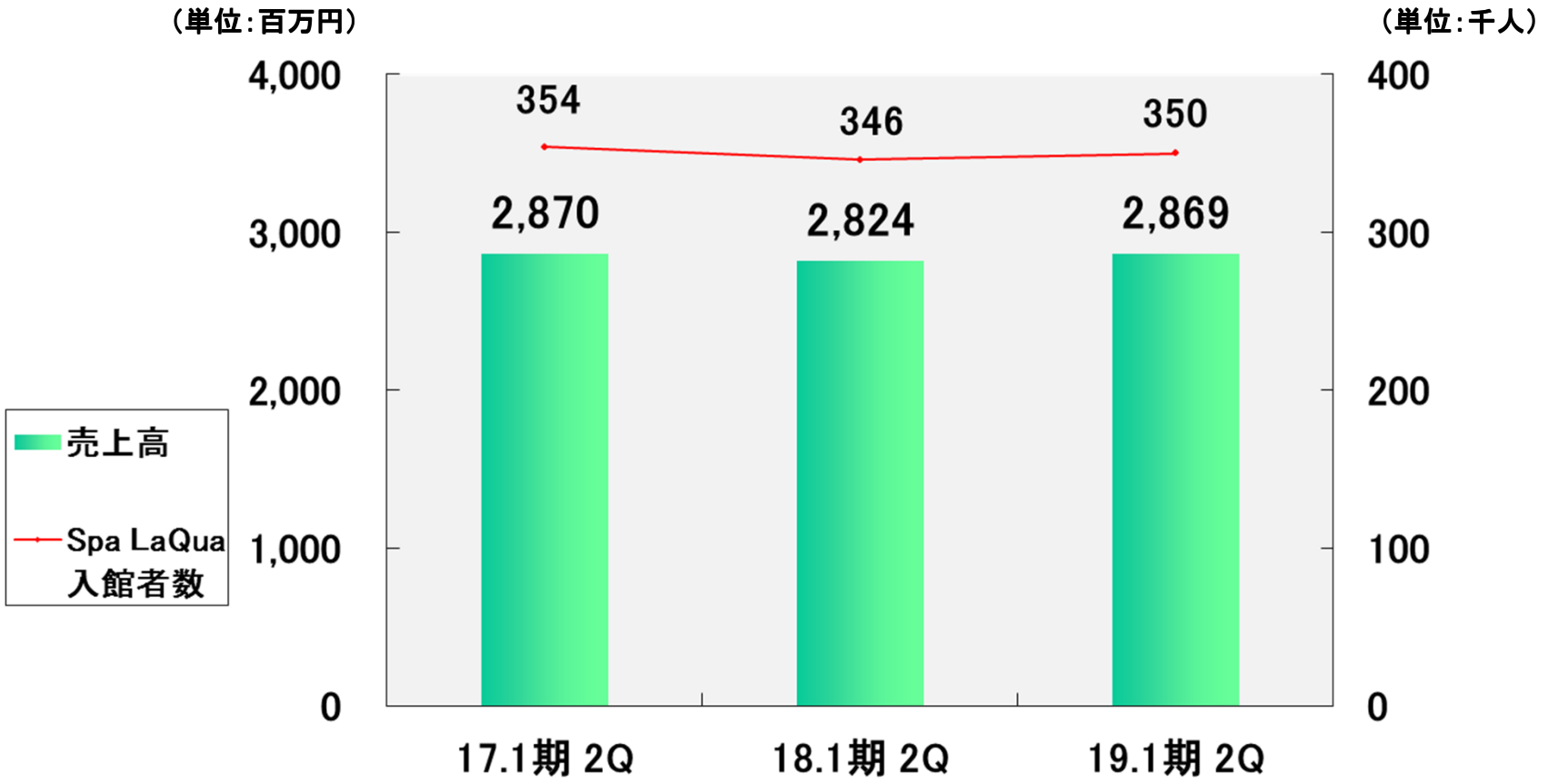
ジャンル別稼働日数	17.1期 2Q	18.1期 2Q	19.1期 2Q
プロ野球 [内巨人戦]	56 [44]	58 [39]	57 [42]
その他野球	24	23	25
コンサートイベント ※	39 (20)	44 (21)	51 (27)
その他イベント ※	28 (22)	25 (19)	26 (19)
合計	147	150	159

19.1期 2Q 計画値	計画比
57 【42】	0 0
25	0
47 (25)	4 (2)
26 (18)	0 (1)
155	4

※ 設営日、撤去日を含む。( )内は、イベント開催日数

TOKYO DOME GROUP

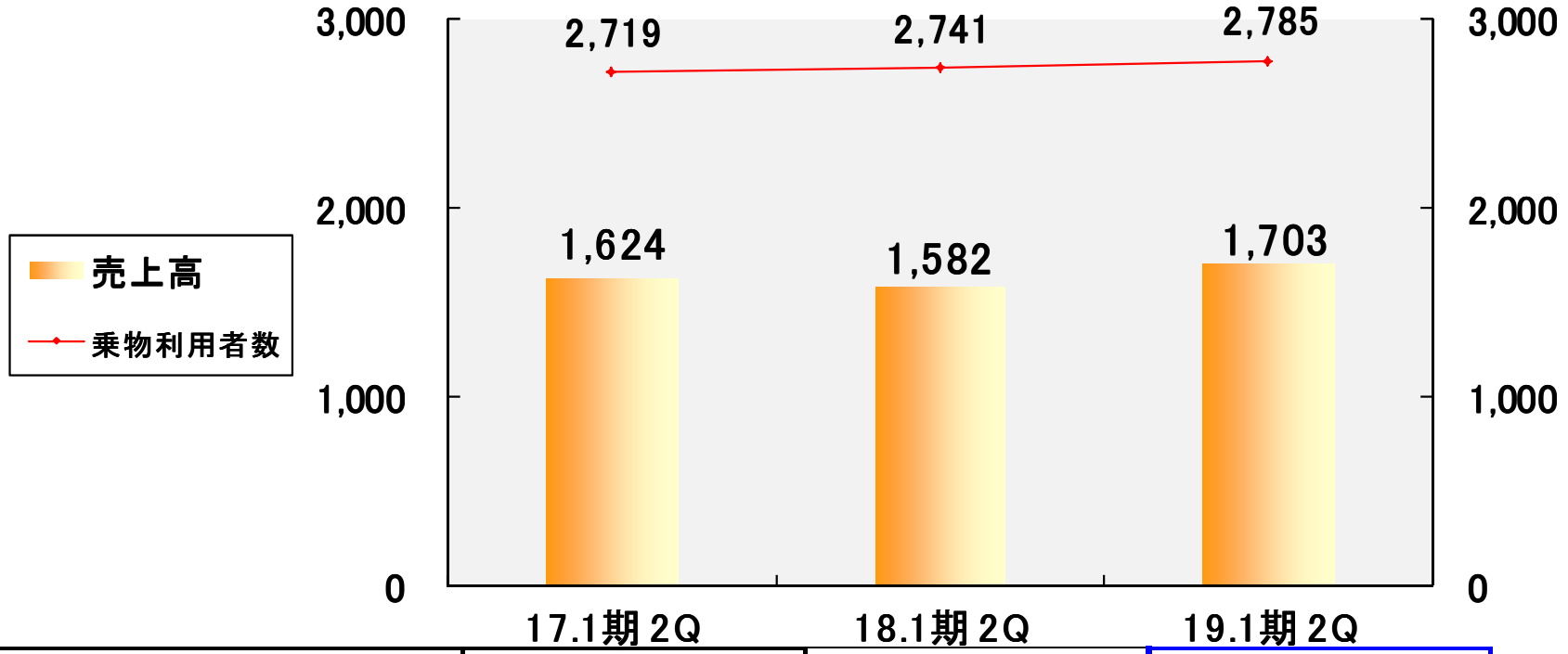
LaQua（ラクーア）



参考	17.1期 2Q	18.1期 2Q	19.1期 2Q
来街者数（千人）	7,062	6,970	7,230
各テナント売上合計（百万円）	6,661	6,708	6,626

東京ドームシティ アトラクションズ、ASOBono!(アソボーノ)

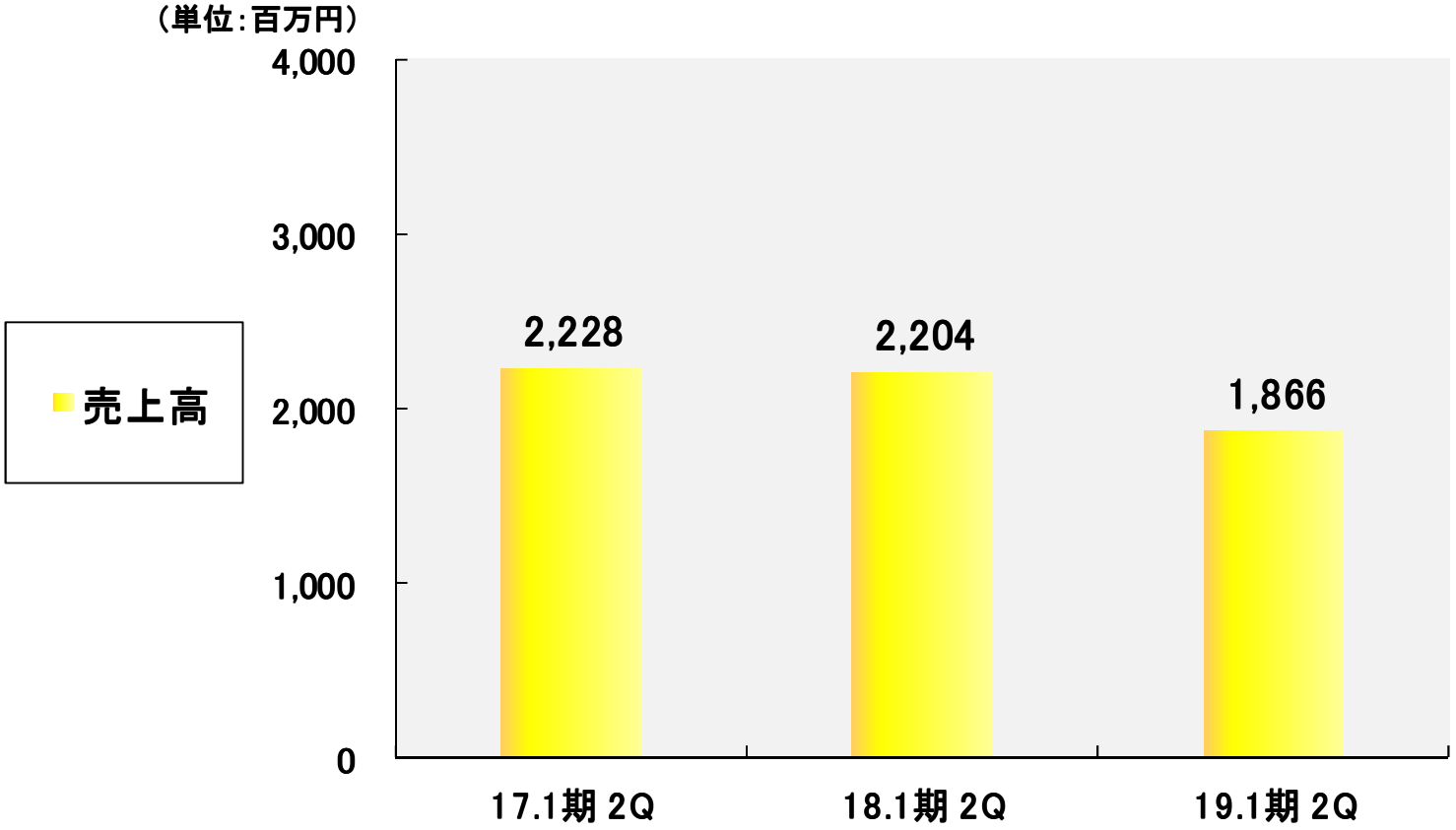
(単位:百万円)　　(単位:千人)



売上高内訳(百万円)	17.1期　2Q	18.1期　2Q	19.1期　2Q
東京ドームシティ アトラクションズ 売上高	1,460	1,403	1,515
ASOBono!売上高	164	178	187

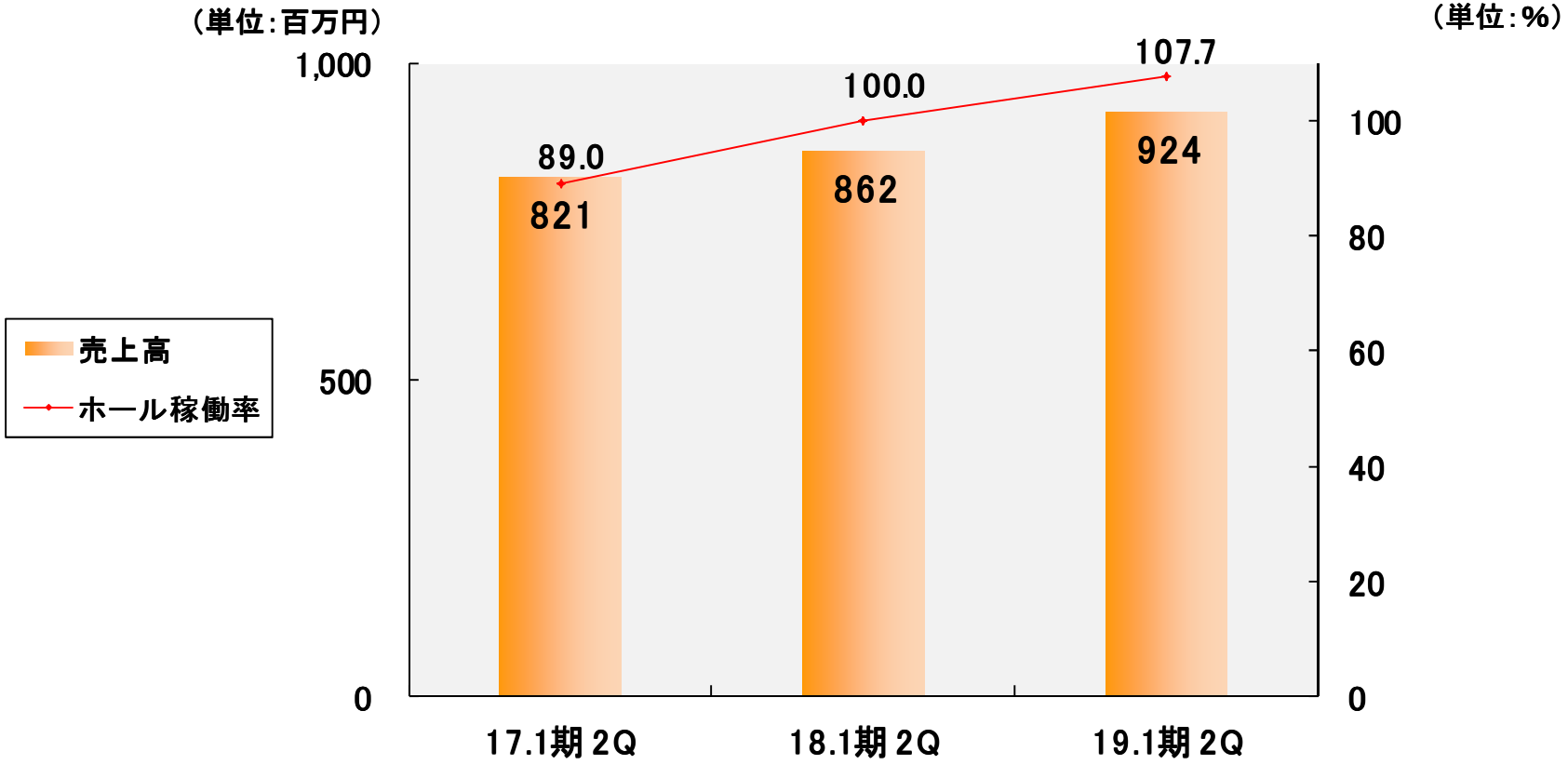
黄色いビル

※売上高の主な内訳は、場外馬券場の賃貸収入となっています。



参考	17.1期 2Q	18.1期 2Q	19.1期 2Q
ウインズ開催日数	53	54	54
オフト開催日数	130	134	134

MEETS PORT（ミーツポート）

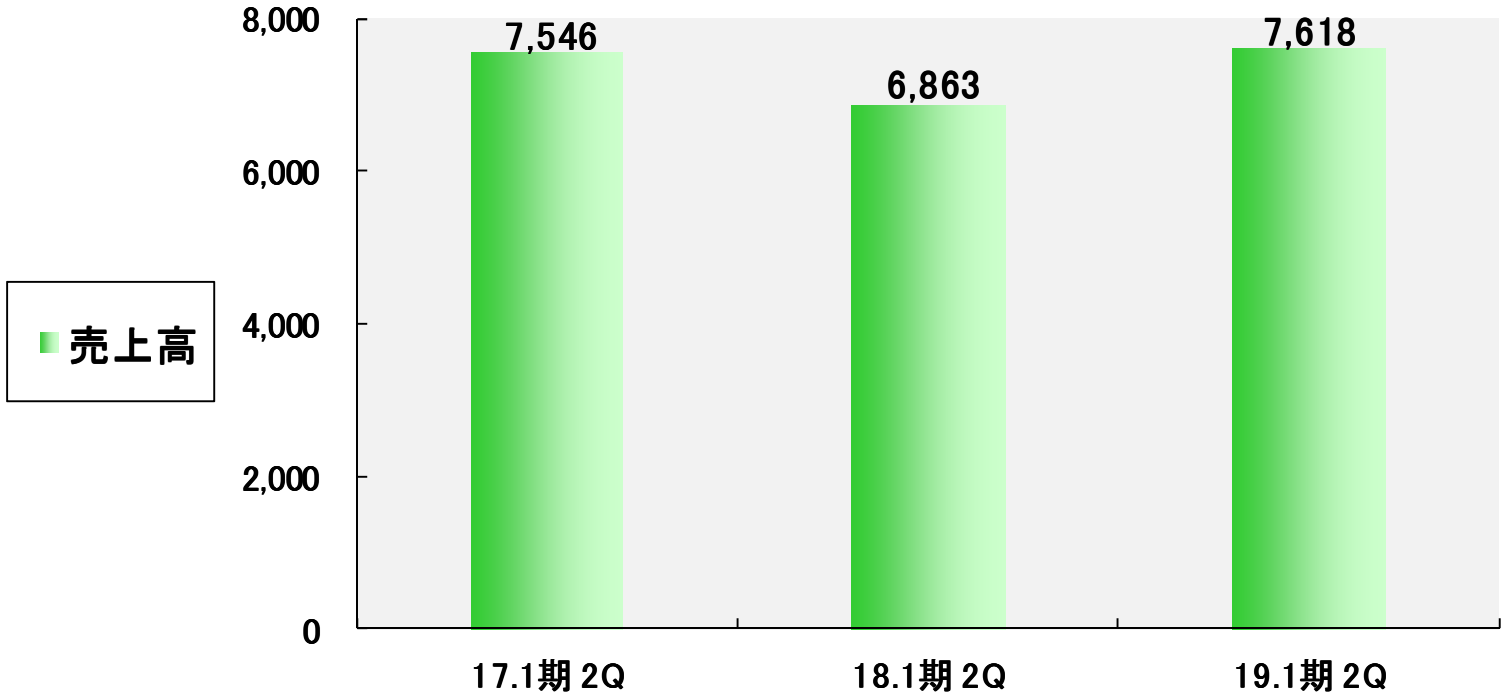


参考	17.1期 2Q	18.1期 2Q	19.1期 2Q
ホール稼働回数　※	162　(127)	181　(137)	195　(154)
ホール入場者数（千人）	210	237	280
各テナント売上合計（百万円）	2,793	2,818	3,226

※　設営、撤去を含む。（　）内は、イベント開催回数

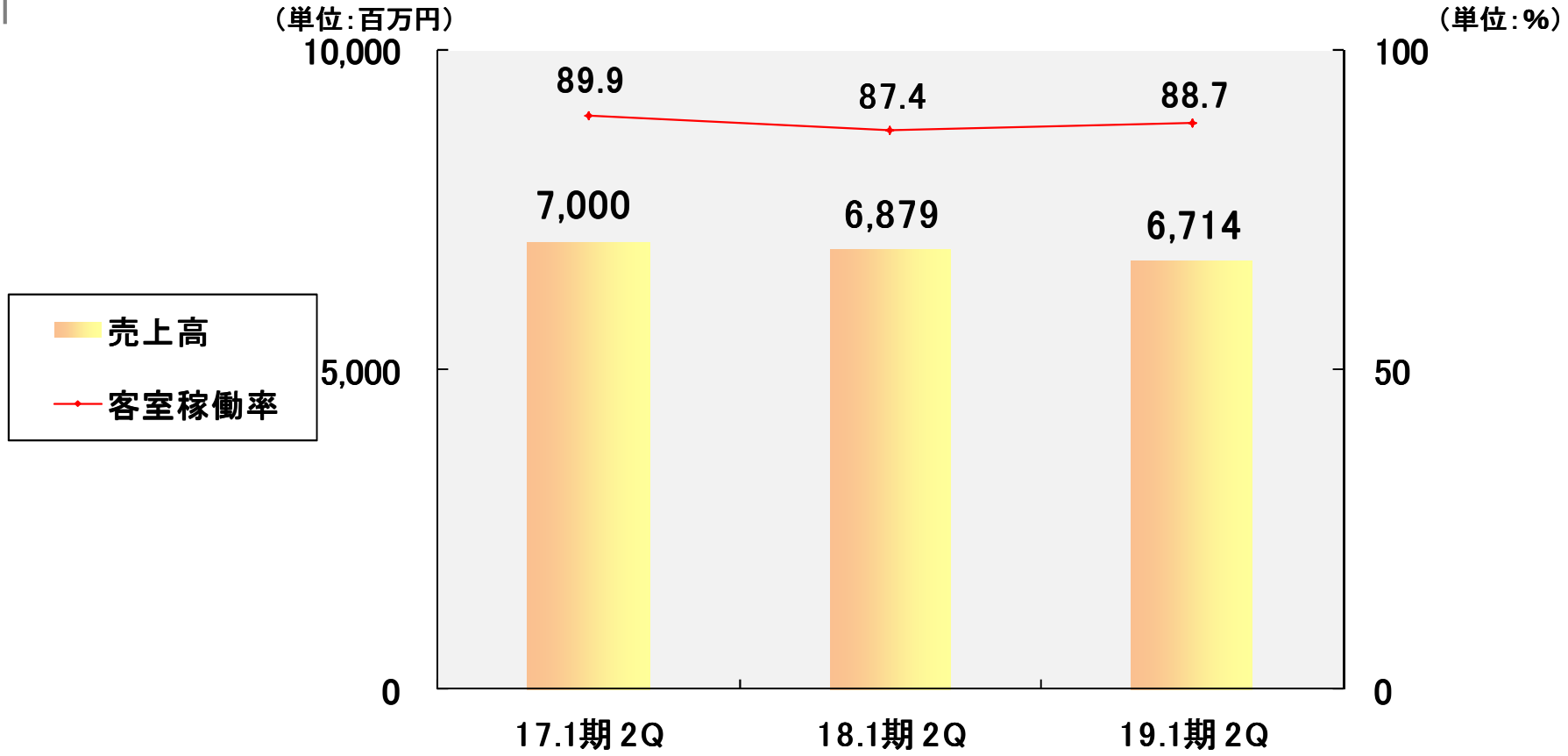
飲食＆物販

（単位：百万円）



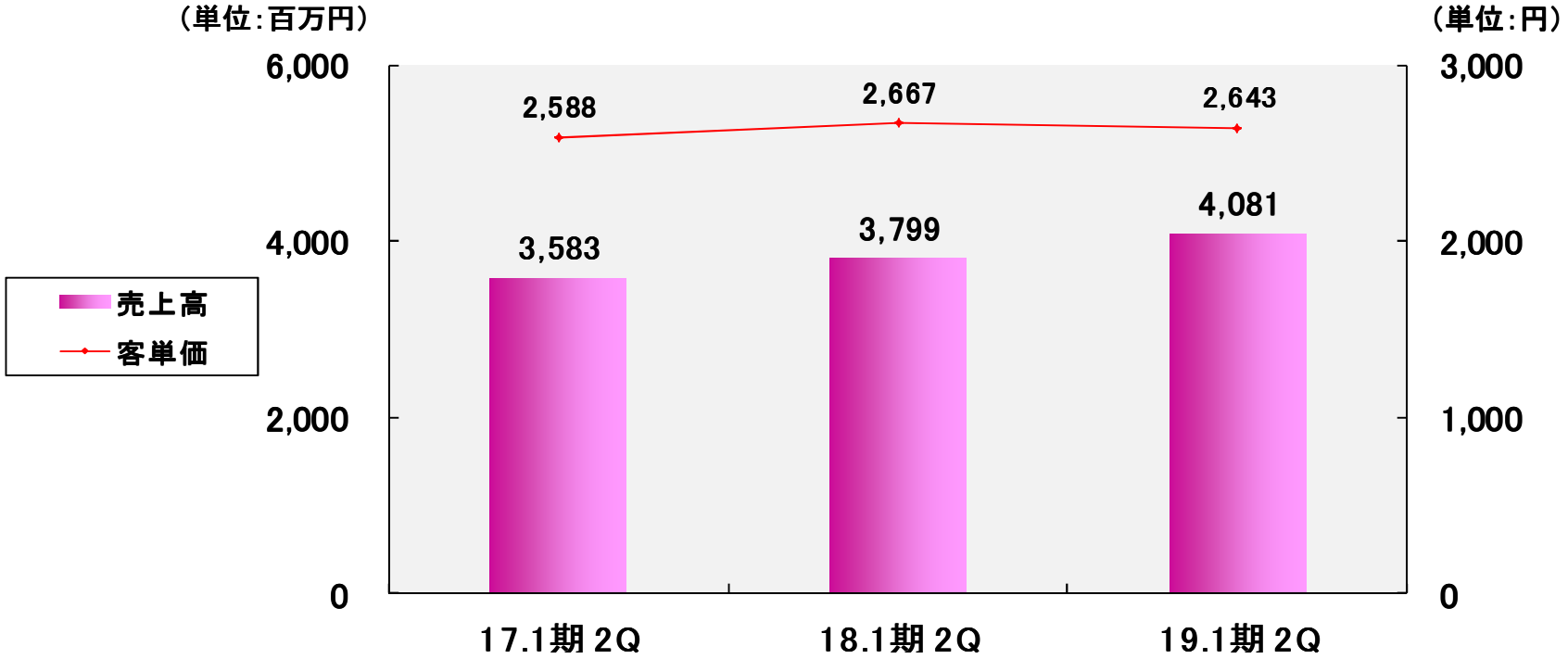
売上高内訳 （百万円）	17.1期 2Q	18.1期 2Q	19.1期 2Q
東京ドームエリア	7,002	6,320	7,085
黄色いビルエリア	219	188	163
アトラクションズエリア	199	206	207
後楽園ホールビルエリア	59	57	56
その他	66	91	106

東京ドームホテル



参考	17.1期 2Q	18.1期 2Q	19.1期 2Q
宿泊者数（千人）	264	253	260
宴会件数	1,107	1,106	1,106
婚礼件数	134	116	117

流通事業　shop in（ショップイン）

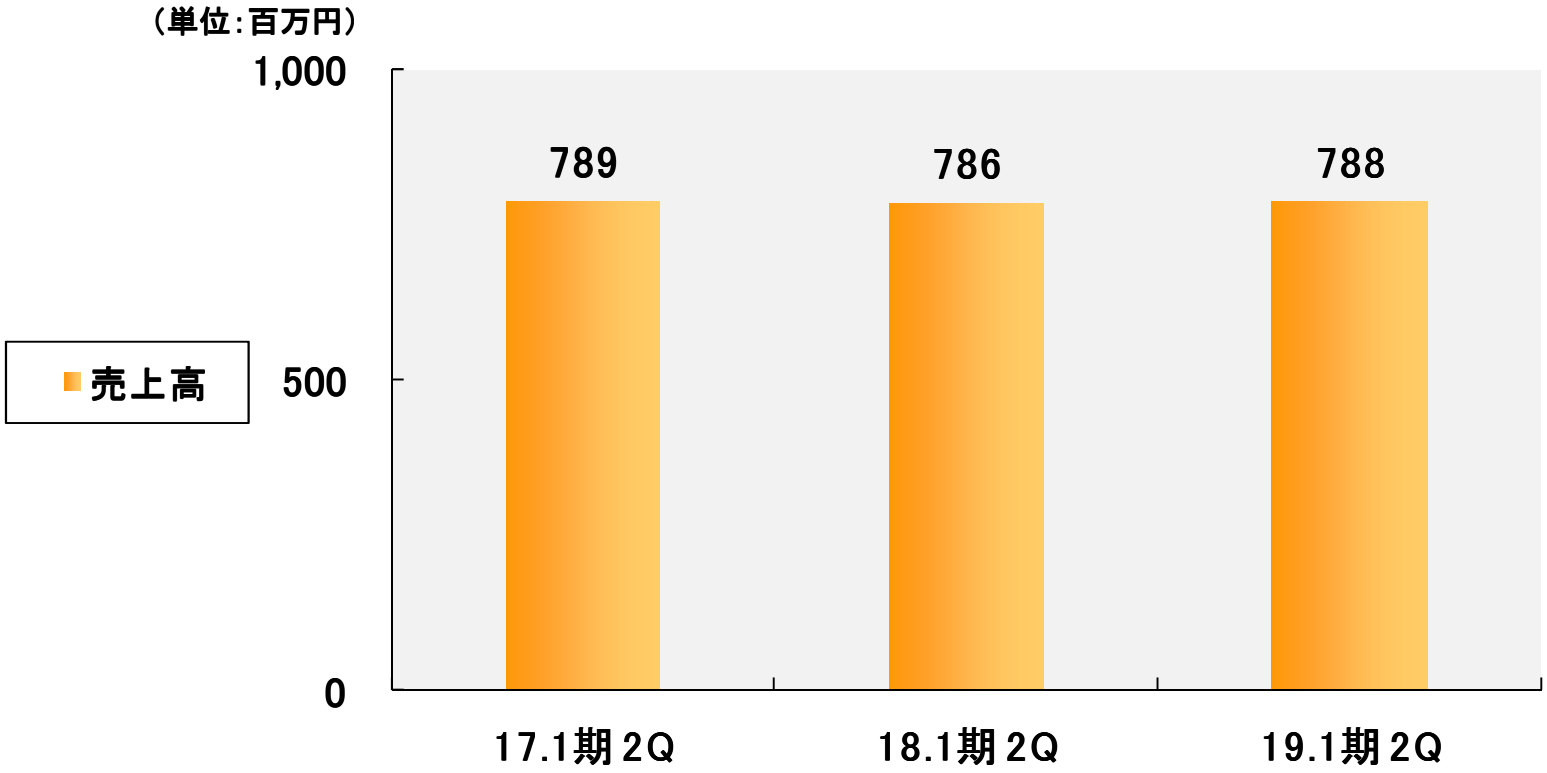


参考	17.1期 2Q	18.1期 2Q	19.1期 2Q
月坪売上（千円）	370	388	420
店舗数	41	42	42

■新規出店：クレームエルージュ武蔵小杉店（2/1）、クレームエルージュ小田急新宿店（2/28）、ルミネ新宿店（5/14）

■退　　店：シャポー市川店（6/30）、銀座インズ店（7/31）

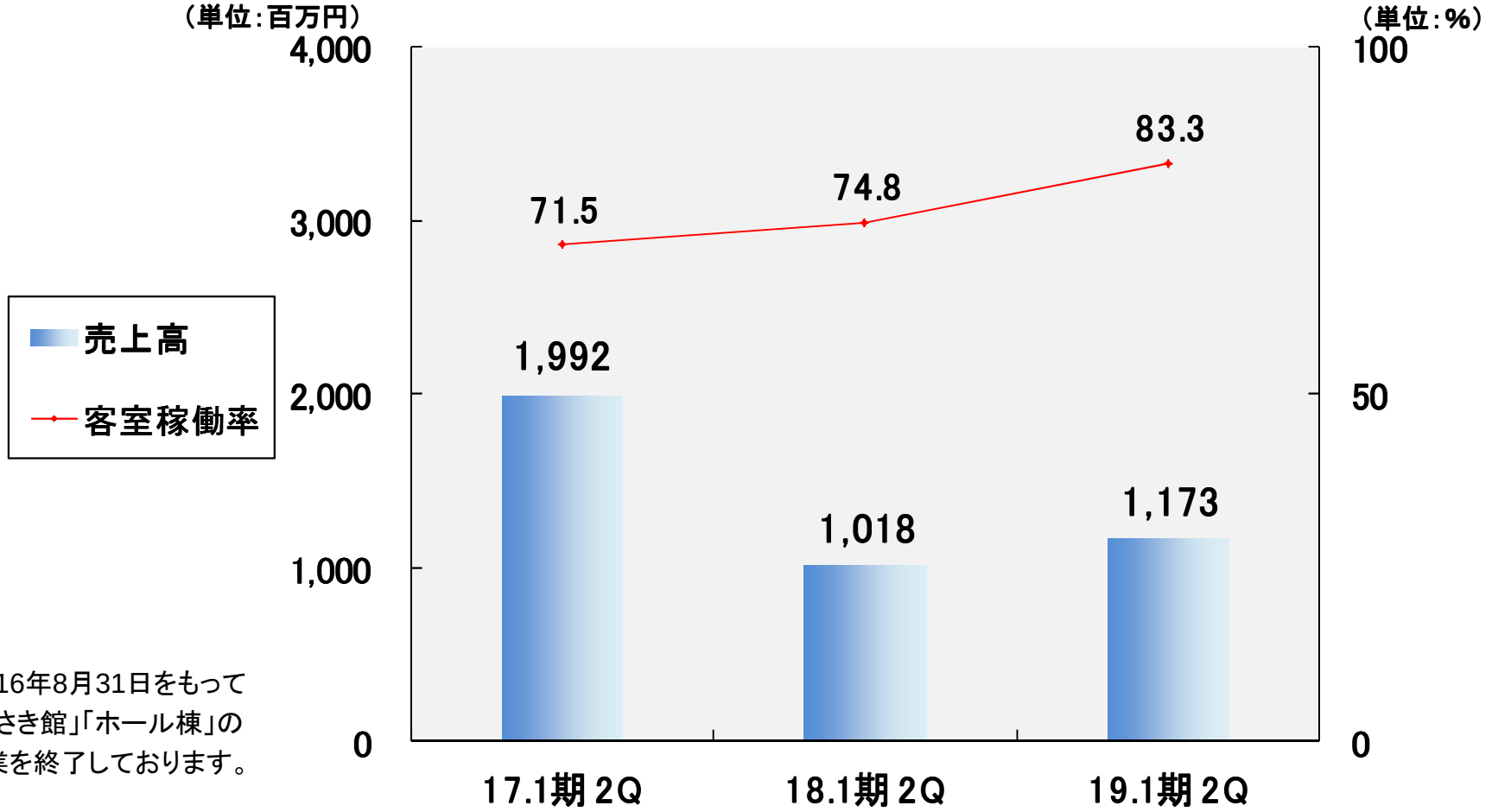
不動産事業



主な所有物件

- アドホック新宿（新宿区）
- プチモール二ツ木（松戸市）
- 代々木イースト（渋谷区）
- 柿の木坂BMW（目黒区）
- 市ヶ谷ビル（新宿区）
- 相模原ビル（相模原市）

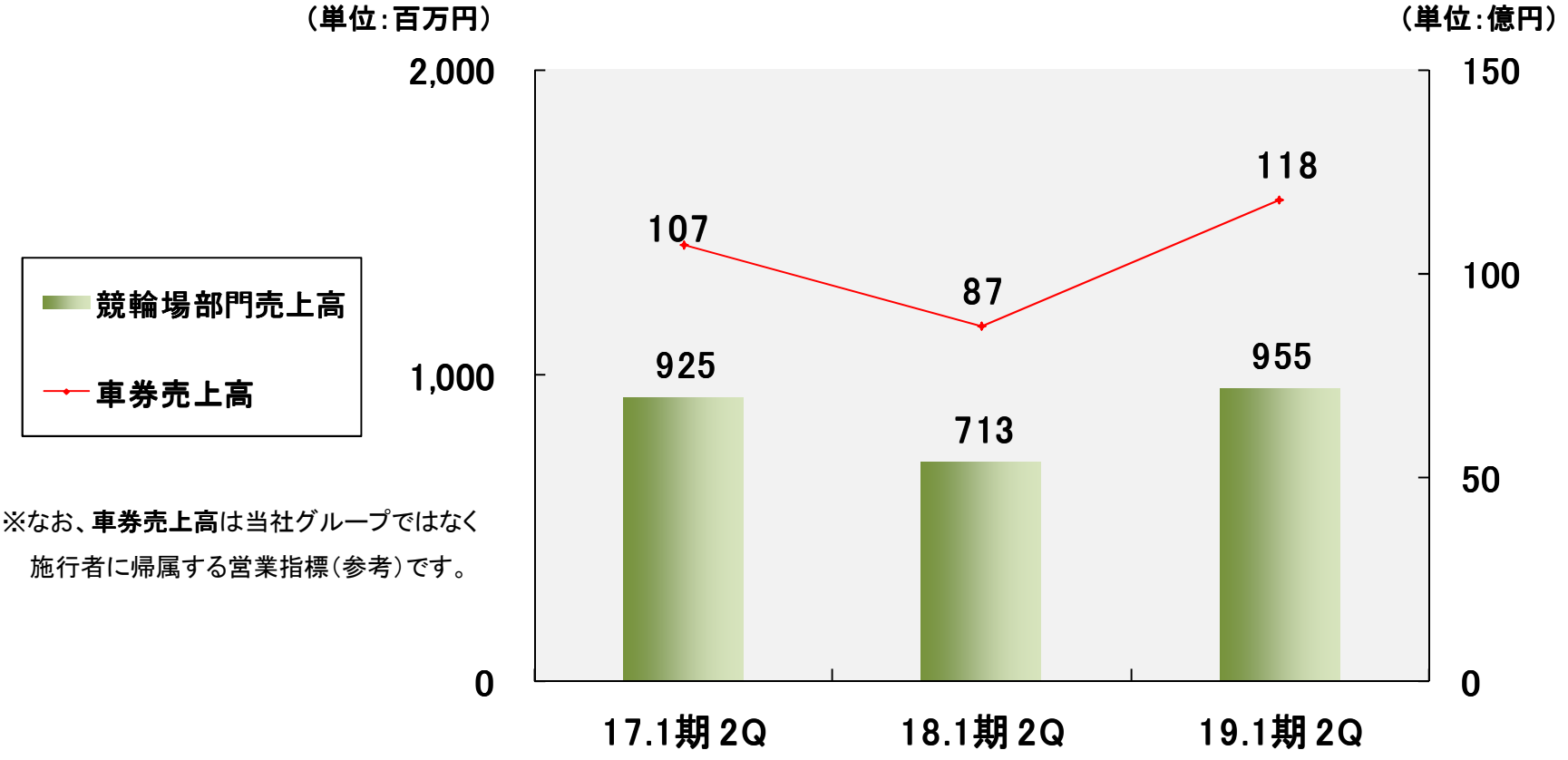
熱海事業　熱海後楽園ホテル



※2016年8月31日をもって「みさき館」「ホール棟」の営業を終了しております。

参考	17.1期 2Q	18.1期 2Q	19.1期 2Q
宿泊者数（千人）	92	35	39

競輪事業　松戸競輪場　他



※なお、**車券売上高**は当社グループではなく施行者に帰属する営業指標（参考）です。

競輪場部門売上高内訳 （百万円）	17.1期 2Q	18.1期 2Q	19.1期 2Q
賃貸収入	254	188	246
運営受託収入	519	408	594
その他収入	151	117	113